

2017年3月期 決算説明会

KYODEN
GROUP



2017年6月2日
株式会社キョウデン
(証券コード：6881)

AGENDA

- * 業績及び財政状況
 - * 電子事業
 - * 工業材料事業
 - * 新規事業の取り組み
 - * 中期経営計画進捗
- ONE KYODEN 600 —

業績及び財政状況

2017年3月期 連結業績概要

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減額	増減率
売上高	51,144	53,862	+2,717	+5.3%
営業利益	1,797	2,065	+267	+14.9%
EBITDA (償却前営業損益)	3,485	3,846	+361	+10.3%
経常利益	1,332	1,896	+563	+42.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	259	1,467	+1,207	+465.6%
ROE	2.4%	12.4%		
年間配当金(円/株)	1	5 (普通3+特別2)		

TOPICS :

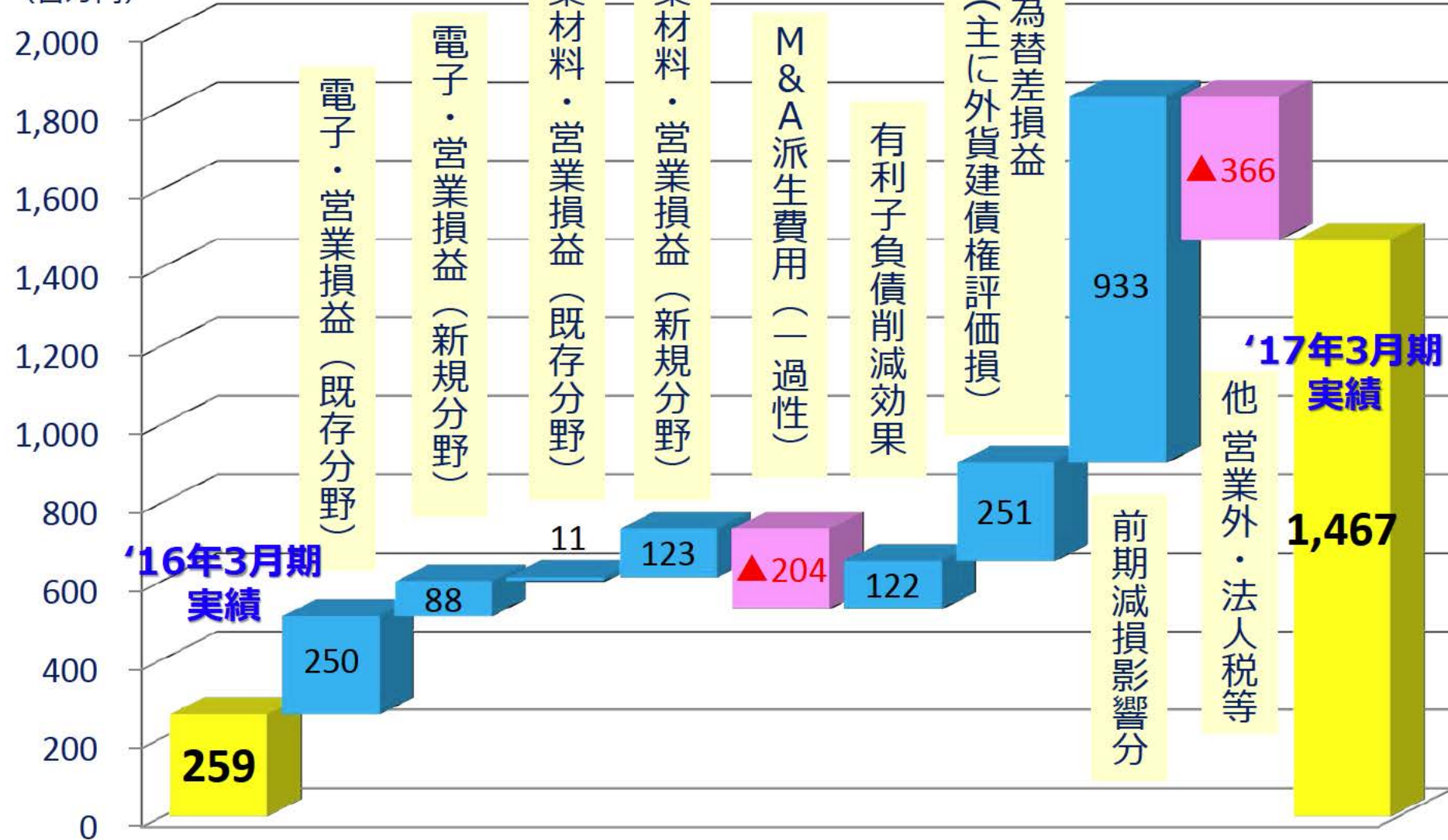
- 売上高は 電子事業全般の好調及び前期中に子会社化した3社分が加算となり増加一方 為替変動により 外貨建売上分では 前期比換算差額(▲505百万円)が発生
- 利益面では 前期M&A実施関連の一過性費用(約204百万円)の計上を含む 海外電子事業(キョウデンタイランド)の業績改善が大きく寄与(後頁参照)

■業績好調につき

9年ぶりの1株5円(普通3円+特別2円) 配当実施を決定!!

連結当期利益 前期比増減要因

当期純利益
(百万円)



連結業績推移

【単位：百万円】



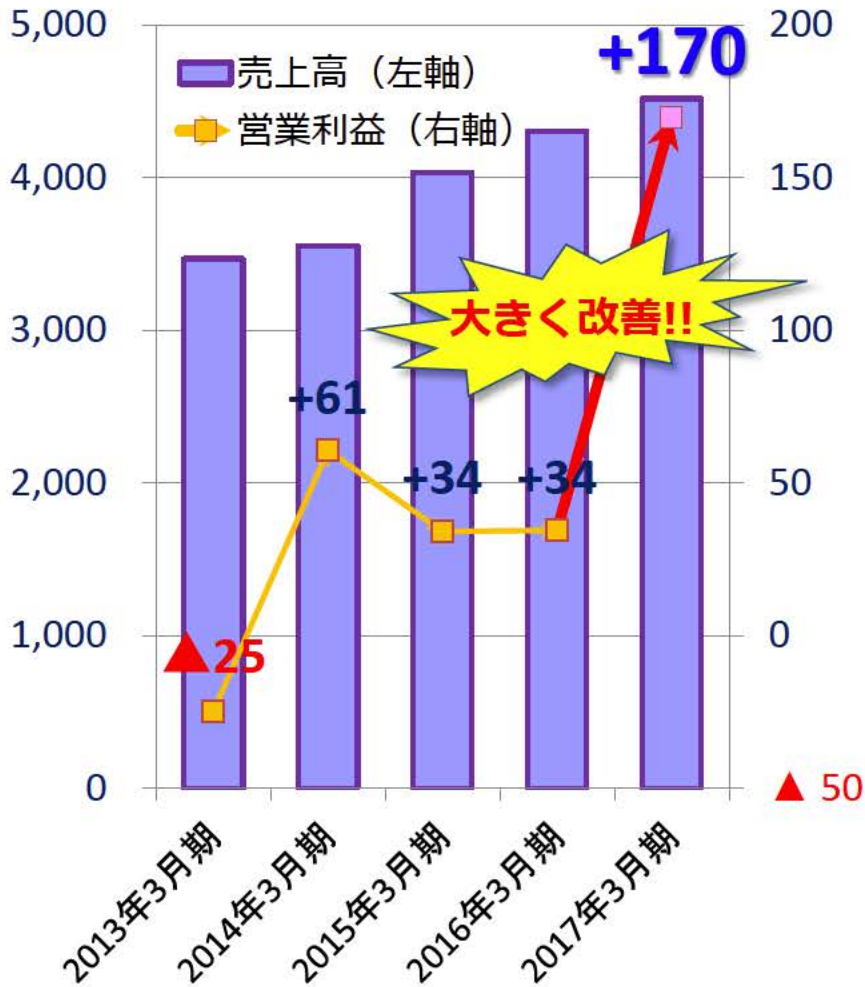
**売上高・営業利益・経常利益は
2013年3月期から4期連続で着実に伸長!!**

【 2017年3月期 業績ピックアップ① 】

～海外電子事業・タイ工場の業績改善～

◆ KYODEN (THAILAND) 実績推移

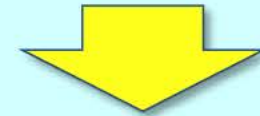
(現地通貨：百万タイバーツ単位)



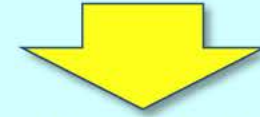
◇従来より **車載関連**の旺盛な受注環境と設備投資による拡大によって 売上は順調に伸長していたが

- ・定常的なコストダウン対応
- ・現地人件費水準の継続的な上昇
- ・原材料・副資材及び水光熱コストの高騰

などから 利益は長期にわたり低迷
⇒ **グループ財務体質改善の足かせに。。。**



◇**グループ総力を挙げて**
品質及び生産性の改善に 短期集中で取り組み



◇**歩留率が日本国内生産の水準まで改善**

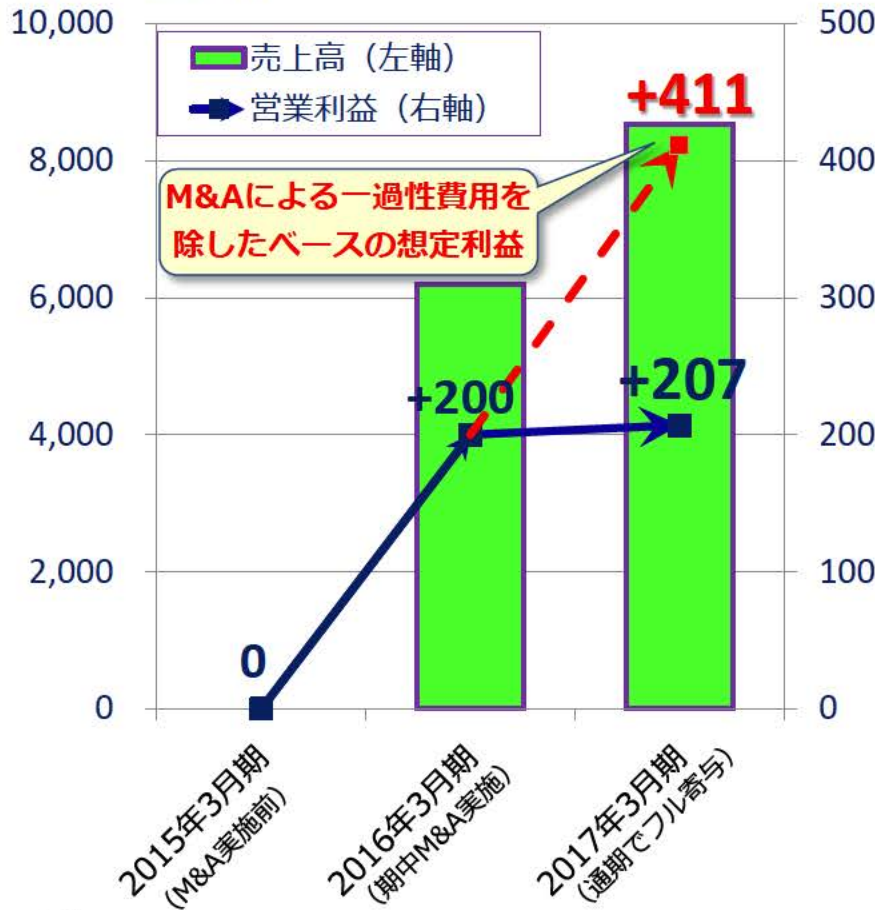
- ・余剰投入分の低下
- ・納期対応力 (生産効率) アップ
- ・エア等通常外輸送費の低減

など **業績良化の好循環にシフト**
⇒ **財務体質の大幅改善**

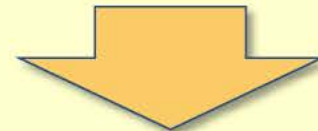
【 2017年3月期 業績ピックアップ② 】

～M&A実施及びPMI(実施後の効果追求プロセス)成果～

◆ 2016年3月期に子会社した3社の業績貢献
 -キョウデンプレジジョン、ジャンテック、
 ツルガスパンクリート業績推移(3社合算) -
 (単位：百万円)



◇ 電子事業・工業材料事業ともに 中長期の視点において 既存ビジネスの幅を広げるべく M&A実施



<電子事業>

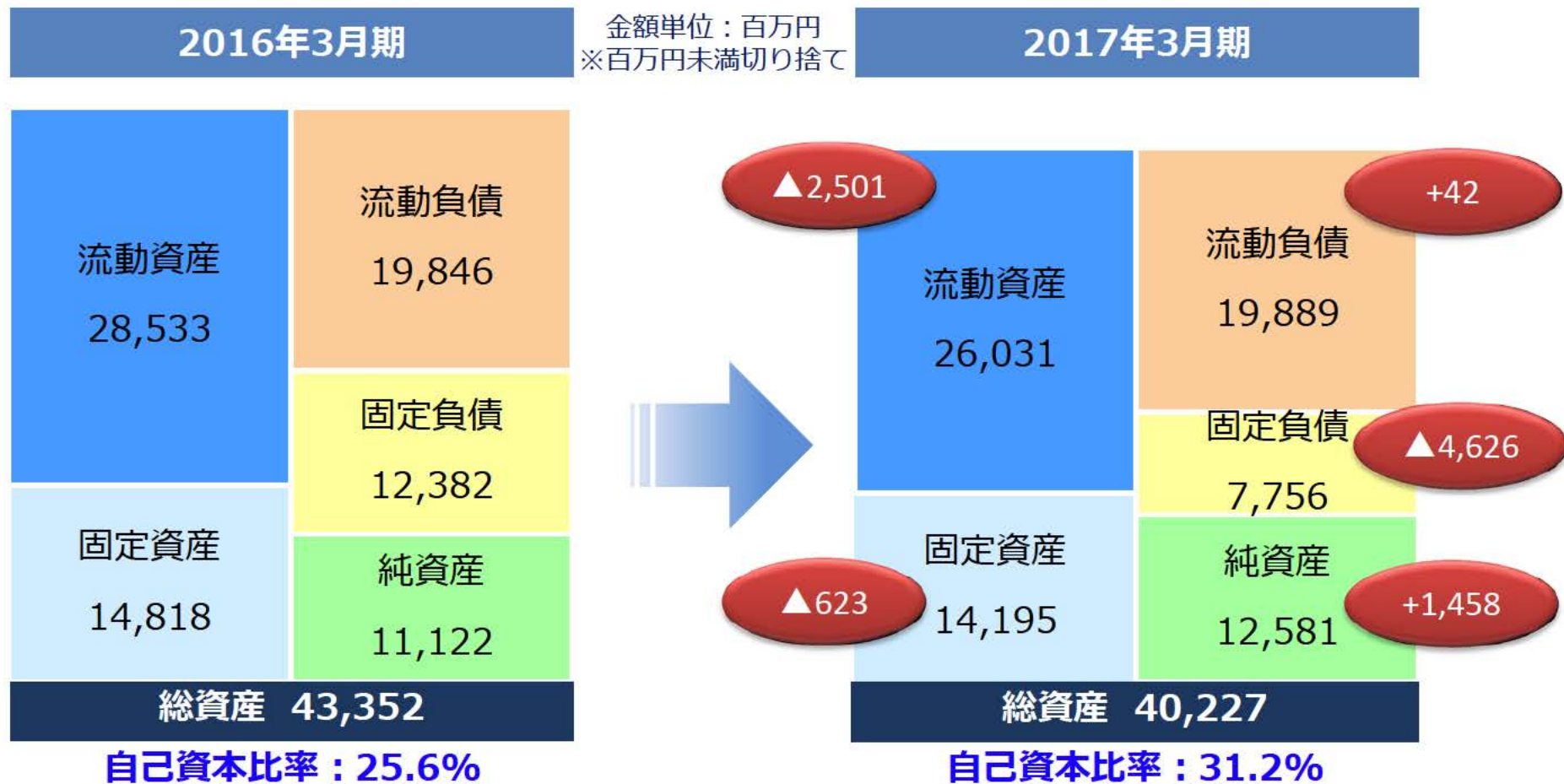
◇ 従来のプリント基板プロセスの川下である製品組立を手掛けるキョウデンプレジジョンを子会社化
 ⇒キョウデンのブランド製品開発や 新技術を用いたマーケットの開拓に向けて投資支出を先行させながらも 初年度から黒字運営を維持

<工業材料事業>

◇ 将来的な原料・資材需要の高まりを想定し 金属原料を扱うジャンテックと 耐久性に優れた建築資材を扱うツルガスパンクリートを子会社化
 ⇒従来事業とのシナジーを高め 初年度から黒字運営を維持

⇒M&A実施で派生した一過性要因により 2017年3月期は約204百万円の費用計上

連結貸借対照表



- 当期利益による純資産の積み増しに加え
グループ内の資金効率を高めることに注力した結果
2018年度を目標としていた自己資本比率30%超過を2年前倒して実現！！

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	増減額
営業C F	1,844	4,139	+2,294
投資C F	▲1,169	▲902	+266
財務C F	▲1,800	▲6,197	▲4,396
現金及び 現金同等物の残高	8,126	5,165	▲2,961

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)
設備投資	2,184	1,636	2,200
減価償却費	1,687	1,781	2,000
研究開発費	308	216	500

2018年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	対前年比 増減額
【売上高】	53,862	55,000	+1,138
電子事業	43,155	43,400	+245
工業材料事業	10,706	11,600	+894
【営業利益】	2,065	2,300	+235
電子事業	1,172	1,400	+228
工業材料事業	892	900	+8
【EBITDA (償却前損益)】	3,846	4,300	+454
【経常利益】	1,896	2,100	+204
【親会社株主に帰属 する当期純利益】	1,467	1,500	+33
【ROE】	12.4%	10.8%	
【年間配当金(円/株)】	⁵ (普通3+特別2)	3~5	

電子事業



開発支援（設計、試作）から国内・海外量産
基板・実装・筐体・組立に至るまでのフルサポート体制

ワンストップソリューション

【製品用途・販売構成】

コンシューマー向け

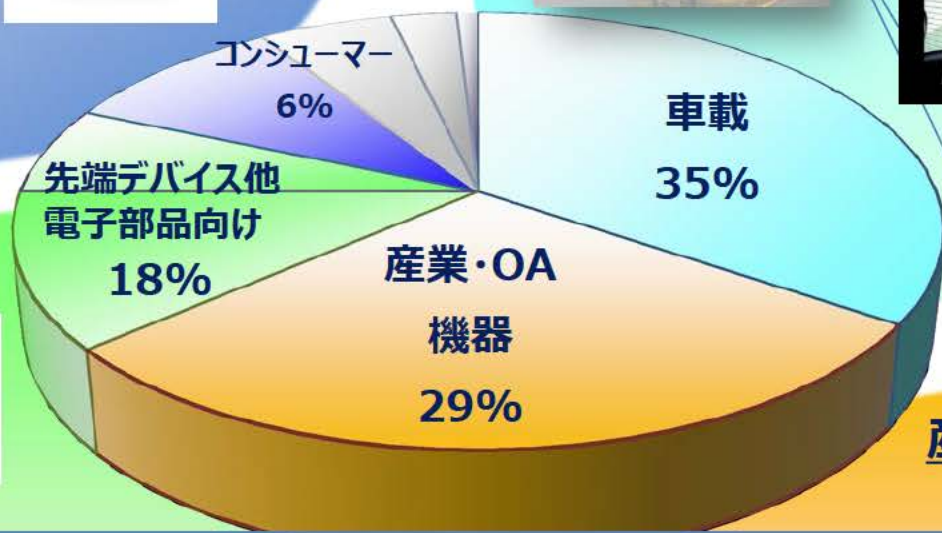


車載向け

自動車市場の活況を背景に
キョウデンもタイ工場中心に車載向けが好調！



先端デバイス向け



産業・OA機器向け



2016年度電子事業売上高：431億円

大阪事業所の先端技術を駆使したプリント配線基板が
ウェアラブル端末・液晶バックライト
・チップLED関連向けなどで伸長！



工業材料事業

【事業内容・製品用途①】

工業材料事業

～ 工業材料事業の従来ビジネス（非金属分野）～

最終製品・用途事例



【事業内容・製品用途②】

～ 工業材料事業の新規ビジネス（金属分野／コンクリート二次製品分野）～

ジャンテック

金属の破粉碎・
分級・混合加工



当社製品例

ツルガスパンクリート

製品（穴開きPC板）の特長

- ・PC鋼線によって
プレストレスを与えられたコンクリート板
- ・通常のコンクリート製品と比較して
 - － 高強度かつ軽量
 - － 断熱／遮音／耐火性能に優れる 建築・土木資材
- ・工場生産品であり品質安定、現場での納期短縮化



最終製品事例

特殊鋼板
(耐摩耗材)

自動車部品

溶接材料

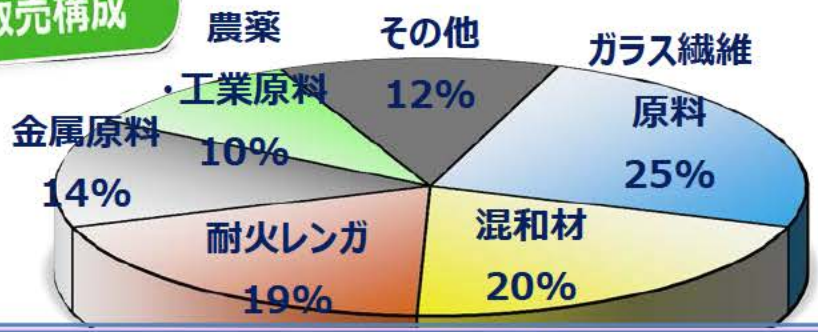
大型施設
床・外壁等

新幹線
防音壁



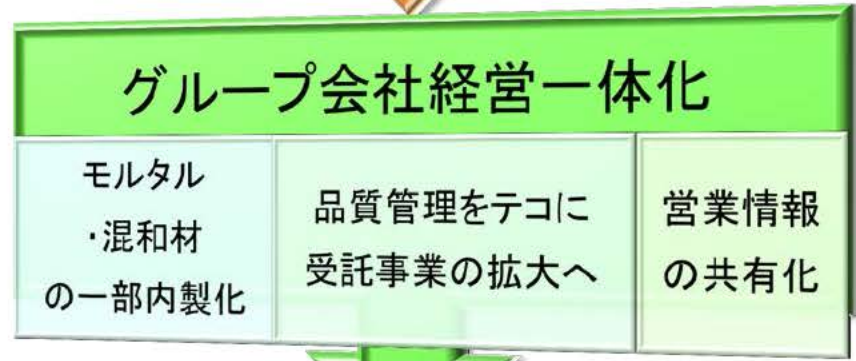
【 業況及びトピックス 】

販売構成



2016年度工業材料事業売上高：107億

今後の取り組み



前期レビュー



新規事業の取り組み

【新規事業の取り組み】

新規事業

～新規事業への参入～ 事業構造の変革に向け「新規事業本部」及び「三島開発センター」を創設！キョウデンブランド製品の上市実現に向け加速！！

自社ブランド事業



照明

- 高機能の導光板印刷技術を活用し照度と省エネ性能に優れたLED照明機器への参入

バイオ

- 水素水を用いた農作物栽培の実証実験（産学連携）
- 遊休資産を活用した全く新しい分野への展開

IoT

- 位置情報の特定や計測データの送信などに適した省電力・長距離通信を得意とするSigfoxネットワークのインテグレート
- 農水路管理へのIT機器活用

EMS事業

DMM.make AKIBA

スタートアップ° 支援

- DMM.Makeとの提携からアイデア製品の発掘

EMS

- 既存ビジネスの有する多種リソースを活用した受託生産

◆キョウデンブランド自社販売（準備中）

●投光器



<導光板投光器・ハンディタイプ>

●仕様

IP65仕様、外形：350×360×380mm、重量：4.8Kg

入力：100V～240V 点灯時間：約10時間

●販売時期 2017年度上市予定

◆ターゲット：工事レンタル業者、
及び波及する産業分野 他

●600×600導光板照明



<600角導光板照明>

●仕様

本体外形：620×620×50mm、重量：2.5Kg

4面LED入光、外枠アルミ（放熱仕様）

●販売時期 2017年度上市予定

◆ターゲット：ビル建設業者 他

【事例紹介② 製造受託】

新規事業

● 2輪教習用シミュレータ 〈(株)セガ・ロジスティクスサービス様向け〉

- ・設置先 全国 自動車教習所
- ・2017年4月より組立開始



● CT-254G 乾燥機 〈TOSEI社向け〉

- ・コインランドリー向け乾燥機 25キロタイプ
- ※14キロタイプCT-144G



● 半導体製造装置用 サーキュレータ

- ・2017年度より組立開始

● V-280A 真空包装機 〈TOSEI社向け〉



【 事例紹介③ バイオ/IoT 】

新規事業

- 水素水による水耕栽培の実証実験
— 農業高校（専門家）との産学連携 —



将来的には・・・

- 水素水生成機器の開発・量産
- 個人向け栽培キットの量産 など

- DMM.Makeへの協賛から
IoTの農業活用へ



スポンサー参加

DMM.make AKIBA

事例：農業ソリューションを手掛ける
(株)笑農和様の案件獲得

☆ 用水路の水位によって
自動開閉する水門コントロール機器

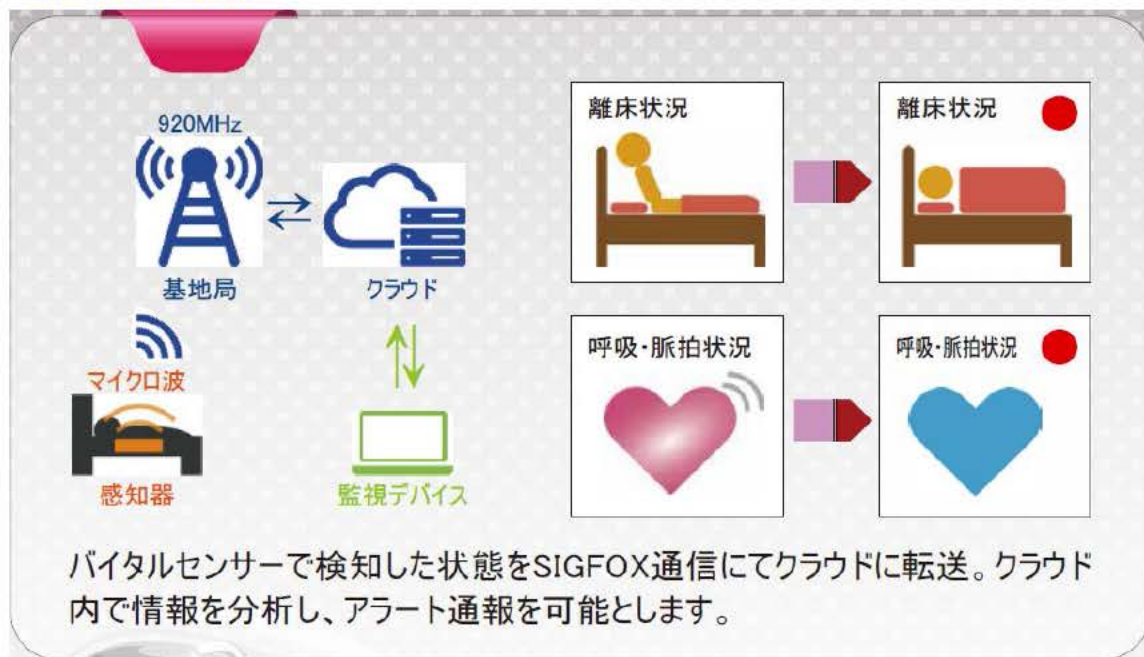


◆「sigfox」を活用したIoT事業への進出

：グローバルで利用可能なLPWA(Low Power, Wide Area)ネットワーク
免許不要な920MHz帯域を利用して **低価格・省電力・長距離伝送の通信を実現**

- ＜主な特徴＞
- (1) 低価格：IoT用途に適した低価格なプラン
 - (2) 安価なデバイス：通信モジュールの初期費用を低減
 - (3) 省電力：電池で数年の稼動が可能
 - (4) グローバル展開：グローバルで同一ネットワーク

＜活用事例＞



2017年5月15日 業務用ランドリー機器等を製造・販売する
株式会社TOSEIへの資本参加（持分法適用関連会社化）を実施！！

－ TOSEI社概要 － (<http://www.tosei-corporation.co.jp/>)

○経営成績及び財政状態（2016年3月期時点）

（単位：百万円）

純資産	2,389	売上高	10,463
総資産	6,318	営業利益	818
		当期純利益	532

○会社の特徴

- － 業界で最初に洗濯乾燥機タイプをリリース
- － 10kg以上のコインランドリー機器において
トップクラスの業界シェア（約3割・同社試算）を持つ
- － ランドリー機器の他に真空包装機・店舗設計・施工なども手掛ける

TOSEI

～取扱製品例～

ランドリー機器



真空包装機



店舗設計・施工



将来的には TOSEIビジネスのノウハウから

当社の電子事業が目指す完成品メーカーへの発展に必要な機能の充足を企図！

○近年の業界動向（業務用洗濯機器関連）

- 布団・靴など衣類以外も洗える機器が続々登場
- 利用者層が拡大し 雰囲気の良いコインランドリーなども登場し活況に
⇒業界全体のコイン機の販売台数は2015年から2016年で約1.5倍に増加

需要の急増を背景に 生産総量の早期拡大を計画

○総量拡大計画

- 真空包装機の生産をキョウデンプレジジョンに移管し ランドリー機器生産に集中
現状（2017年度）月産360台 ⇒ 2018年度1000台 and more ?
2年間（2017～2018」年度）で総額35億円の設備投資計画の実施へ

さらに

○ランドリービジネスの変革へ・・・

- 集中精算機によるキャッシュレス化（電子マネー、クレジット決済等）
- IoTの活用による店舗管理のシステム化
- カフェや託児所等を併設したコンセプト店舗構想
- 洗浄性の向上による洗剤の使用量削減 他

『受託事業拡大』『メーカーブランド認知』を目指した事業変革

財務
視点

構造転換：自社ブランド確立

医療・介護
領域進出
EMS展開

保守部品
供給支援
サービス拡充

自社ブランド化
開発体制確立
OEM展開

構造改革：収益体質構築

拠点間
連携強化

グループ内
事業・組織再編

ITシステム
最適化

顧客
視点

製造業を手段に、サービス業の視点からOne Stop Solution の提案強化
ニッチマーケットでのサービス拡充をにらんだ事業展開（短納期試作、保守部品供給）

プロセス
視点

部品事業
省力化・自動化

EMS事業
既存の囲い込みと
新規の開拓

開発部門
ODM受注拡大
要素技術確立

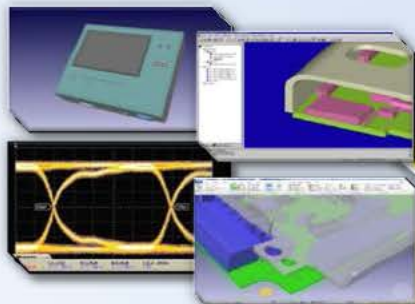
製造部門
フルキブル生産体制
グループ内生産最適化

中期経営計画進捗 ～ONE KYODEN 600～

～電子事業～

ものづくりの上流下流への進出

⇒ワンストップソリューションの垂直的領域拡充
・自社ブランド製品の開発



発展分野
R&D支援
エレメカ協調対応

成熟分野

AW設計
基板製造
基板実装



開拓分野

ユニット組立
機構・筐体
金型設計



◎産業ターゲット

車載・カーエレ



航空・宇宙

医療・ヘルスケア



～工業材料事業～

取扱原料のメニュー拡充

⇒ニッチメジャーの水平的領域拡充

水平

成熟分野

グラスファイバー原料
耐火物
混和材 他



展開

2016年度は新規子会社2社のPMI順調
今後もM&A等による事業の水平展開を志向

【売上高・利益計画】

中期経営計画

(売上・億円)

中期計画

(利益・億円)



TOPICS

－中期計画1年目（2016年度）は業績としては順調－

前4期のように大きな特別損失や為替差損の発生が無かったこともあり最終利益は急伸
一方 中長期を鑑みた新規事業への取り組みでは始動が後ろズレになり課題を残す

－2018年度の営業利益44億・最終利益22億の実現要素－

既存事業をベースにした有機的な業績目標：営業利益＋27億・最終利益＋16億

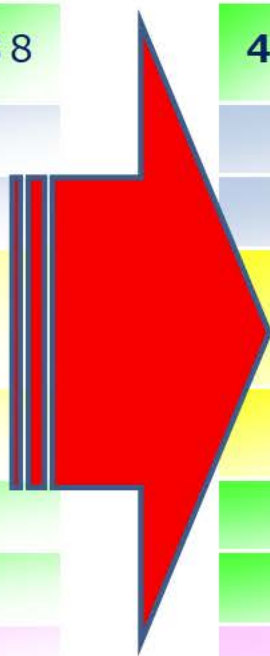
＋新規事業の成功による伸長期待値：営業利益＋17億・最終利益＋6億

【投資計画・経営指標】

中期経営計画

<単位：億円>

年度	2015年度（実績）			2016年度（実績）			2018年度（目標）		
	電子	工業材料	合計	電子	工業材料	合計	電子	工業材料	合計
売上高	405	106	511	431	107	538	465	135	600
営業利益	18		20		44				
営業利益率	3.5%		3.8%		7.4%				
当社株主に 帰属する 当期純利益	2.6		14.6		22.0				
ROE	2.4%		12.4%		12.0%				
投資額(※)	34		16		28				
(減価償却費)	(22)		(17)		(21)				
自己資本比率	25.6%		31.2%		30.0%				



TOPICS

※投資額：設備投資＋M&A費用

2018年度に達成目標としていたROEや自己資本比率の指標は2年前倒しで達成！！

ただし 新規事業を始めとする事業構造変革への着手（支出）が後ズレしており 今後は
先行投資（支出）が増加することを鑑み 2018年度の経営指標の目標値は据え置き

【 KDグループ ストーリー 】

中期経営計画



キョウデングループは “今を支える” 多種事業のシナジーにより
新たな価値（製品）の創造に取り組んでまいります！

- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。
- ご利用に関しては、ご自身の判断にてお願い致します。
本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、
当社は一切責任を負いませんので、ご承知おきください。



本資料に関するご照会先

株式会社 キョウデン 経営企画部

TEL : 045-929-0501